

## 国語科 学習指導案

○○立○○高等学校  
指導教諭 ○○○○先生  
授業者 ○○○○

- 1 日 時 令和○年○月○日 (○曜) ○限 (○:○~○:○、55分)  
2 指導学級 普通科 1年○組○人 (男子○人、女子○人)  
3 教科・科目 国語・国語総合 (古典)  
4 使用教材 『国語総合』 (古典編) (出版社 ○○○○)  
5 単元名 和歌をきっかけにした男の心情の変化を捉えよう。『伊勢物語』「筒井筒」  
6 単元の目標

- (1) 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳解をしたりしようとする。(関心・意欲・態度)  
(2) 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳解をしたりする。(読む能力)  
(3) 伝統的な言語文化の特質に気付き、説明する。(知識・理解)

### 7 生徒の実態

生徒は基本的に予習をして授業に臨んでおり、文法事項や語句の意味を調べることはある程度できているが、物語の内容を味わい楽しむところまではなかなか至らない。授業時には、予習してきたことを根拠に、周りの生徒と物語の内容について話し合う時間を持つことができるよう、指導を工夫する。主にペアでの意見交換を通して、内容の理解をより深いものとし、これまで読み継がれてきた古典の面白さを味わわせる。

### 8 指導上の留意点

「筒井筒」は、二人妻説話である。もとの女の行動や詠んだ和歌によって男が心変わりをする展開は、生徒も比較的理 解しやすい。また、分量や展開なども、予習をもとにして自分たちで読み味わうにはふさわしい。単に文法事項や語句の意味を押さえながら途切れ途切れに読み解したり、授業者が答えを提示したりするのではなく、男の心情変化に関する課題を設定し、ペアワークなどを通して主体的に読み解くよう指導する。

### 9 単元の評価規準 (評価の観点別の「おおむね満足できる」状況)

ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 知識・理解
文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳解をしたりしようとしている。	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳解をしたりしている。	伝統的な言語文化の特質に気付き、説明している。

### 10 単元の構成 (全 6 時間) (太枠の第 4 時が本時)

時	各時間の目標	学習活動	評価規準	評価方法

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の目標を理解し、学習の見通しを持つ。</li> <li>・ 『伊勢物語』についての基本的な知識を理解する。</li> <li>・ 本文をなめらかに音読する。</li> <li>・ 「～聞かでなむありける。」まで現代語訳をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元のねらいと言語活動の関連を理解し、見通しを持つ。</li> <li>・ 教科書、国語便覧を見て想像しながら説明を聞き、理解する。</li> <li>・ 接続や句切れに注意しながらペアで音読し、読み方を確かめあう。</li> <li>・ 予習をもとにして現代語訳し、情景や心情を捉えるとともに、文法事項や語句の意味を理解する。</li> </ul>	ア	行動の観察
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「～つひに本意のごとくあひにけり。」まで現代語訳をする。</li> <li>・ 「つひに本意のごとくあひにけり」のきっかけを考える。</li> <li>・ 和歌について基本的な知識（掛詞、序詞の仕組みなど）を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習をもとにして現代語訳し、展開を捉えるとともに、文法事項や語句の意味を理解する。</li> <li>・ ペアで話し合い、結婚に至るきっかけを探る。（和歌、「言ひ言ひて」）</li> <li>・ パワーポイントを使用して、視覚的に理解を促す。（ここで、「風吹けば」の和歌を例として使用する。）</li> </ul>	ウ	行動の観察
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「～河内へも行かずなりにけり。」まで現代語訳をする。</li> <li>・ なぜ、男は新しい女をつくったのか考える。</li> <li>・ 「いとよう化粧じて」いる女を見た男の心情を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習をもとにして現代語訳し、展開を捉えるとともに、文法事項や語句の意味を理解する。</li> <li>・ ペアで男の行動の意図について話し合い、結婚生活における女の経済的負担を気遣ったものでもあることを理解する。</li> <li>・ ペアで男の心情について話し合い、女の浮気への疑いの気持ちが高まっているであろうことを理解する。</li> </ul>	イ	行動の確認
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「河内へも行かずなりにけり。」までの展開をノートを見て振り返る。</li> <li>・ 展開をふまえた「風吹けば」の和歌の解釈を通して、和歌に込めた女の思いと、それを聞いた男の心情の変化を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隣同士机をつけて相談できる形をつくり、ペアで予習や前時までの内容をもとにして展開を振り返る。</li> <li>・ 「風吹けば」の和歌に込めた女の気持ちを読み取り、和歌を聞いた男の心情がどのように変化したかを考える。</li> <li>・ 和歌を聞く前と聞いた後での男の心情の変化に気づき、ペアで話し合ってまとめる。</li> </ul>	イ	行動の確認
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「まれまれかの～男住まずなりにけり。」まで理解する。</li> <li>・ もとの女と高安の女の違いを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習をもとにして現代語訳し、展開を理解するとともに、文法事項や語句の意味を理解する。</li> <li>・ ペアで、もとの女と高安の女の比較をし、話し合いながら表にまとめて考える。（経済面、態度、和歌など）</li> </ul>	ア	行動の観察
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本文全体を振り返り、内容を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペアやグループで単元の学習を振り返り、意見の交流を通して作品を読み味わ</li> </ul>		

6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「箇井箇からわかる、平安男の心をつかむテクニックベスト3」を考えることを通して、「和歌」の働きや重要性に気づく。</li> <li>単元の振り返りをする。</li> </ul>	<p>う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアで左記の課題に取り組むことを通して、和歌の良さや面白さ、当時の風習などについて考えを深める。</li> <li>和歌の贈答が、お互いの思いを伝え合ったり、関係を深めたりしていく上で重要な働きをしていたことを理解する。 (初めのうちは顔を見ることもない→「和歌」の上手さが印象を左右する。)</li> <li>ワークシートを用いて単元の振り返りを行い、次の学習への見通しを持つ。</li> </ul>	ウ 記述の分析

## 11 本時の目標

展開をふまえた「風吹けば」の和歌の解釈を通して、和歌に込めた女の思いと、それを聞いた男の心情の変化を理解する。

## 12 本時の展開

時間	教師の働きかけ	生徒の活動と指導上の留意点	評価
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標を理解する。</li> <li>ペア音読をする。</li> <li>前時の内容を振り返る。</li> <li>和歌を聞く前の男の気持ちを確認する。 (ワークシート①)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を板書して、理解を促す。</li> <li>隣の人と机を近づけさせる。</li> <li>意味や接続、和歌に注意して、なめらかな音読ができているか確かめ合うよう、指示する。</li> <li>ノートを見て、前時の内容を振り返る。</li> <li>和歌を聞く前は、身なりを整えている女に対して浮気を疑う気持ちであったことを確認、ワークシートに書き込ませる。</li> </ul>	
展開 I 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「風吹けば」の和歌の解釈をする。 (ワークシート②)</li> <li>和歌を聞いた男の心情を想像する。 (ワークシート③)</li> </ul>	<p>○個人で考える時間や交流の時間を確保し、考えを広げたり深めたりする場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4分間自分で考えて記入する。5分間隣の人とワークシートを交換して読み合い、よいと思ったことを自分のワークシートにペンで書き足す。</li> <li>女がどのような思いでこの和歌を詠んだのか問い合わせ、考えさせる。</li> <li>4分間自分で考えて記入する。5分間隣の人とワークシートを交換して読み合い、ペンで書き足しをする。</li> <li>男は女のどのような様子を見て「限りなくかなし」と思ったのか、考えさせる。 (時間内にペアで終わったら、前後でも交換や加筆を行って良い。)</li> </ul>	
		<p>○自分の考えをまとめるとともに、交流を通して理解を深める場を設ける。</p>	

展開 II 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌を聞く前と聞いた後で、男の心情がどのように変化したか理解する。 (ワークシートまとめ)</li> <li>2～3人に発表させ、考え方を確かめさせる。 (ワークシート②とまとめ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4分間自分で考えて記入する。5分間ペアや前後の人とワークシートを交換して読み合い、書き足しをする。</li> <li>ワークシートに書き込ませ、考えを整理させる。</li> <li>自分の解釈が適切であったか、まとめが十分であったかを確かめながら発表を聞き、なるほどと思った点があればワークシートに色ペンで書き足す。</li> </ul>	イ 行動の 確認
まとめ 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のまとめをし、次回の見通しを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい女とはその後どうなったのか次回読むことを伝え、予習がまだの生徒には、予習をするよう促す。</li> </ul>	

### 13 本時の評価

評価規準	「努力を要する」状況と判断される例	指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳解をしたりしている。（読む能力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女の心情が想像できず、和歌の読み取りができないで、手が止まっている。</li> <li>和歌を聞いた男の気持ちを想像できず、なかなか課題を進めることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自力でなかなか書き込めない時にはグループの人に聞くよう指示する。また、聞かれた時には相手に伝わるように説明するとよいことを指示する。</li> </ul>

## 地理歴史科 学習指導案

○○○○ 高等学校

指導教諭 ○○○○

授業者 ○○○○

1. 日 時 令和4年5月25日（水）3限 10:50～11:40（50分）

2. 指導学級 トップ英進部 2年1組（男子7人 女子25人 計32人）

3. 教科・科目 地理歴史・日本史B

4 使用教材 教科書 詳説日本史B（山川出版社）

副教材 詳説日本史図録（山川出版社）

日本史頻出史料165（山川出版社）

新日本史要点ノート[応用編]（啓隆社）

5 単元（題材）名

第2章 律令国家の形成 2律令国家への道 民衆の負担

6. 単元の目標

○飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連付けて概観し、その知識を身に付けた上で諸資料を活用して歴史的事象の探究方法を身に付けることができる。（知識・技能）

○飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色から課題を見出し、東アジア世界との交流と関連付けて多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

○飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色を意欲的に捉え、東アジア世界との交流と関連付けて課題を見出し、その解決に向けて主体的に追求しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

7. 生徒の実態

男子7名、女子25名と男女比率の差はあるものの普段の生活は男女ともに仲が良く活気に満ちているが、授業となると自ら発言をする生徒はほとんどみられない。しかし歴史的事象に関する興味・関心は比較的高く、生徒の好奇心を刺激する発問に対しては積極的な姿勢をみせる。知識・理解度を深めるために、班別学習に重点を置

き、相互の意見交換等を通じて主体的・対話的な学習により、学びを深める授業実践を行う。

## 8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色についての基本的な事柄を東アジア世界との交流と関連付けて概観し、その知識を身に付けた上で諸資料を活用して歴史的事象の探究方法を身に付けている。	飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色から課題を見出し、東アジア世界との交流と関連付けて多面的・多角的に考察した過程や結果を適切に表現している。	飛鳥から奈良時代にかけての政治の動向及び社会・文化の特色を意欲的に捉え、東アジア世界との交流と関連付けて課題を見出し、その解決に向けて主体的に追求しようとしている。

## 9. 単元の構成：全4時間（本時 4/4）

時間	目標	学習活動
1	中学までの知識に上乗せして、大化の改新とは何かを改めて理解することができる。また、「革新の詔」を読んでどのような内容が適切に読み取ることができる。さらになぜ中大兄皇子は蘇我氏を滅ぼし、何の目的で改新政治を行ったのかを自分の言葉で表現できる。	7世紀の目まぐるしく変化する東アジア情勢を捉え、国内政治と関連付けることで中央集権国家の確立の必要がせまられ、改新政治が展開された理由を多面的・多角的に考察する。また、「革新の詔」の史料を活用して歴史的事象を追求する。
2	天智天皇・天武天皇・持統天皇の3天皇がそれぞれ展開した事業を整理して、理解することができる。	天智・天武・持統朝でなされた政策や都の変遷を各天皇ごとに整理する。
3	大宝律令の完成によって確立した官制の特色を理解できる。	大宝律令の完成によって法治国家となり、天皇を中心とした中央集権的官僚制の国家体制が機能していたことを概観し、その特色を理解する。
4 (本時)	律令国家のもとでの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解した上で、戸籍の史料を的確に読み取り必要な情報を取捨選択することが	律令国家のもとでの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解し、習得した知識を応用し、グループで協力し合いながら史料の内容を的確に読み取り、設

	できる。さらに班別学習では協力して主体的かつ的確に設間に答えることができる。	問の解決に向けて主体的に取り組む。
--	--	-------------------

## 10. 本時の目標

- ① 律令国家のもとでの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解できる。(知識・技能)
- ② 戸籍の史料を的確に読み取り、必要な情報を取捨選択することができる。(思考・判断・表現)
- ③ 班別学習では協力して主体的に史料を読解し、意見交換をして設間に的確に答えることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

## 11. 本時の展開

時間	段階	学習活動・予想される生徒の反応	教師の働き掛け
2分	導入	・本時の授業の進め方を確認する。	・前半は板書中心の基礎的知識の習得、後半は習得した知識を応用させ、「下総国葛飾郡大嶋郷嶋保里 戸籍」を読んでワークシートの設間に答えさせる。
23分	展開①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書をする。</li> <li>・身分制は図録51ページを参照して良民と賤民（五色の賤）に分けられていたことを確認する。</li> <li>・戸籍・計帳が作成されていたことを知る。</li> <li>・口分田が班給される条件を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身分に応じて班給される口分田が異なることから律令下における身分制から学習する。</li> <li>・戸籍は6年ごと、計帳は毎年作成されていたことを強調する。</li> <li>・あくまで戸籍が作られた当時の6歳以上の男女に口分田が与えられていたことを注意するよう促す。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な税制は要点ノートを用いて学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要点ノートだけでは不十分であると感じる点はメモを取らせながら解説する。</li> </ul>
20分	展開②	<ul style="list-style-type: none"> <li>班ごとに着席してワークシートに取り組む。</li> <li>「下総国葛飾郡大嶋郷嶋俣里 戸籍」721（養老5）年を読み解く。</li> <li>ワークシートの設問に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予め生徒には班ごとの着席の仕方を伝えておく。</li> <li>史料は図録50ページからの引用であるが、高校2年生でも読めるよう一部の旧字は新字に改めた。</li> <li>班別学習中は机間巡視をして生徒に助言を与える。</li> </ul>
5分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの設問の答え合わせを行う。</li> <li>ワークシートを回収する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問1・2は答えの根拠となる部分を簡潔に解説して答え合わせを行う。設問3は生徒の発言を促す。</li> </ul>

## 12. 本時の評価

評価規準	「努力を要すると判断される」状況の例	指導の手立て
<p>〈知識・技能、思考・判断・表現〉</p> <p>律令国家のもとでの身分制やそれに応じた民衆の負担を理解した上で、戸籍の史料を的確に読み取り必要な情報を取捨選択している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習得した知識を応用することができず、史料を十分に解読することができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視を行なながら習得した知識を改めて整理できるよう助言する。</li> </ul>
<p>〈主体的に学習に取り組む態度〉</p> <p>班別学習では協力して主体的に史料を読み解き、意見交換をして設問に的確に答えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班別学習に積極的に参加せず、設問に答えることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何が分からなのかを聞いて、必要に応じた助言を与える。</li> </ul>

# 公民科 学習指導案

○○県立○○高等学校  
指導教諭 ○○○○先生  
授業者 ○○○○

1 日 時 令和 年 月 日( ○曜 ) 限 ( : ~ : , 55分)

2 指導学級 普通科 2年組 人(男子 人、女子 人)

3 教科・科目 公民・「政治・経済」

4 使用教材 教科書 政治・経済 (出版社 ○○○○)

副教材 ○○○○ (出版社 ○○○○)

5 単元名 第2節 日本経済の発展と課題

6 単元の目標

政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。特に少子高齢社会と社会保障、地域社会の変貌ぼうと住民生活、公害防止と環境保全、産業構造の変化と中小企業、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。

7 生徒の実態

社会的事象に対する興味・関心は強く、特に身近なテーマについては積極的に取り組む姿勢をみせる。意見を発表することや班別学習において熱心に討論をおこなう。一方理論的な内容については、理解に差がみられるため、具体的な事例を用いて理論的な学習をおこなっている。

8 単元の評価規準(評価の観点別の「おおむね満足できる」状況)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・公害防止と環境保全に対する関心を高め、公害の発生原因を意欲的に追究し、今後の環境保全について客観的に考察しようとしている。	・公害防止と環境保全から課題を見いだし、公害の発生原因を多面的・多角的に考察し、今後の環境保全について社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	・公害防止と環境保全に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	・公害の発生原因や被害の大きさ、今後の環境保全対策について理解し、その知識を身に付けている。

9 単元の構成 (全7時間) (太枠の第2時が本時)

時 間	目 標	学 習 活 動
1~3	戦後の日本経済の発展を理解し、中小企業が抱える問題や、農業・食料問題について主体的に考察できる。	・戦後の日本経済の問題や高度経済成長の背景を理解し、グローバルな視点から中小企業問題や、農業問題を考察できる。
4~5	日本経済の発展と公害発生の関係性を明確にし、環境保全政策における基本的原則を理解できる。	・急激な経済発展と政府の政策が、公害発生の背景にあることを理解し、グローバルな環境保全政策について考察できる。
6~7	日本の資源・エネルギーに対する問題を理解し、国民生活への物価の影響や消費者問題に対して考察できる。	・資源のない日本におけるエネルギー問題に対する将来の在り方を主体的に考察し、物価が国民生活に与える影響などを明確にできる。

10 本時の目標

- ・公害の発生原因について、経済との関係を理解する。(知識・理解)
- ・環境保全政策における原則を理解し、具体的な方策について考察できる。(思考・判断)
- ・戦略的環境アセスメントのシミュレーションについて、費用便益分析を用いて、意思決定をおこなうことができる。(関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能)

## 11 本時の展開

評価の観点：**関**：関心・意欲・態度   **思**：思考・判断・表現   **技**：技能   **知**：知識・理解

時間	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点・評価																								
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の時間で学習した日本の四大公害について、それぞれの原因は何か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の学習内容の確認。</li> </ul>	<b>知</b> 前の授業の内容について、具体的な公害の名称、発生場所、原などを確認する。																								
展開1 (15分)	<p><b>発問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>典型7公害にはどのような公害が挙げられているのか。</li> </ul> <p><b>発問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公害健康被害補償法では、どのような内容となっているのか。</li> <li>無過失責任制、汚染者費用負担の原則はどのような原則であるか。</li> <li>総量規制と濃度規制、拡大生産者規制は、どのような原則か。</li> <li>環境基本法は、どのような内容か。</li> <li>環境アセスメント法の内容と、戦略的環境アセスメントの内容はどのような内容か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な環境汚染問題から具体例を推測する。</li> <li>補償の目的を明確にする。</li> <li>加害者側が責任を負う点を理解する。</li> <li>生産者の責任を明確にしている点に着目させる。</li> <li>グローバル化が進む環境問題を理解する。</li> <li>戦略的環境アセスメントの目的を明確にする。</li> </ul>	<b>知</b> 典型7公害について具体的な内容を明確にできる。 <b>知</b> 公害健康被害者を保護する目的であることを理解できる。 <b>思</b> 無過失責任制、汚染者費用負担の原則について具体的な内容から理解できる。 <b>思</b> 総量規制、濃度規制、拡大生産者責任制度について具体的な内容から理解できる。 <b>知</b> 複雑化・地球規模化する環境問題に対応するために制定されたことを理解できる。 <b>思</b> 環境アセスメントと戦略的環境アセスメントのそれぞれの目標、内容を具体的に取り上げることができる。																								
展開2 (25分)	<p style="text-align: center;"><b>「N市の一般廃棄物の最終処分場計画における意思決定」</b></p> <p><b>(1) 最終処分場建設による環境への影響はどうなるのか？</b></p> <p>大・中・小を記入せよ。また総合的評価としてそれぞれ10点満点で評価せよ。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>海岸・国道への影響</th> <th>近隣住民への影響</th> <th>希少生物への影響</th> <th>地下水・河川への影響</th> <th>総合的評価 (10点満点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A案</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B案</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C案</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				海岸・国道への影響	近隣住民への影響	希少生物への影響	地下水・河川への影響	総合的評価 (10点満点)	A案						B案						C案					
	海岸・国道への影響	近隣住民への影響	希少生物への影響	地下水・河川への影響	総合的評価 (10点満点)																						
A案																											
B案																											
C案																											
	<p><b>発問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>N市の一般廃棄物の最終処分場計画について、最終処分場建設による環境への影響はどうなるのか。大・中・小を記入せよ。</li> <li>総合的評価としてそれぞれ10点満点で評価せよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境への影響を、それぞれの項目に従って判断する</li> <li>10点満点で評価する。</li> </ul>	<b>関・技</b> 具体的なプロファイルにもとづき内容を理解し、環境への影響の大・中・小をデシジョン・テーブルにまとめることができる。 <b>関・技</b> 総合的評価として10点満点で評価ができる。																								

(2) 最終処分場建設にかかる費用の合計はどうなるのか？住民一人あたりの負担はどうなるのか？

	外構施設	道路工事費	運搬費	埋め立て費	合 計	住民(10万人)の 一人あたりの負担
A案	5億円	5億円	10億円	10億円	億円	円
B案	10億円	5億円	5億円	0	億円	円
C案	2億円	2億円	5億円	0	億円	円

**発問**

- 最終処分場建設にかかる費用の合計はどうなるのか。
- 住民一人あたりの負担はどうなるのか。

- 合計額を計算する。
- 住民一人あたりの負担を計算する。

**関・技**最終処分場建設にかかる総額と、住民一人あたりの負担の計算ができる。

(3) <意思決定> 意志決定までのフローチャート

選択したプロファイル

その理由 具体的に記入

案



**発問**

- 選択したプロファイルと、選択の理由はどのようなものか。

- プロファイルを選択し、その理由を記入する。

**関・思**意思決定おこない、選択した理由を記入することができる。

**発問**

- 意思決定をおこなう上で大きな影響を受けるものは、何か。

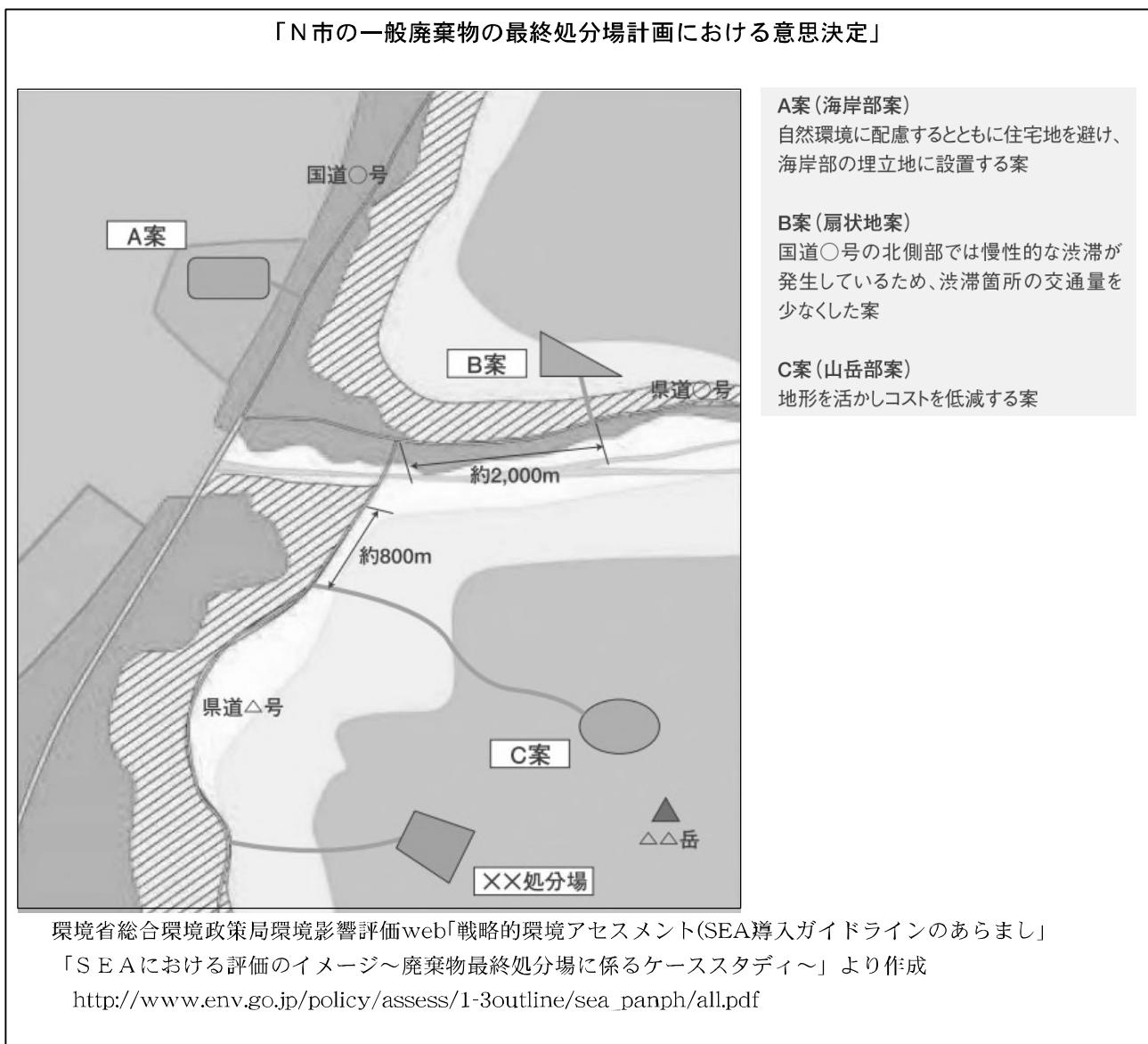
- 意思決定において影響を与えるものを答える。

**思**意思決定をおこなう上で、理由が大きな影響を与えていていることや、理由が価値観を表していることを認識し、自らがメタ認識できるようになる。

## 12 本時の評価

評価規準	「努力を要する」状況と判断される例	指導の手立て
関心・意欲・態度	<p>①公害防止と環境保全に関わる課題に対する関心を持たず、ワークシートにシミュレーションの記入ができていない。</p> <p>②公害防止と環境保全の課題について多面的・多角的に考察できず、望ましい課題の解決の在り方を示せないでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害防止と環境保全に関わる課題と、シミュレーションのねらいを指摘し、環境と費用の関係性を明確にすることで、関心を引き出す。</li> <li>公害防止と環境保全に関わるシミュレーションに対して適切なものを選択し直させ、改めて探究させるとともに励ましをおこなう。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>①公害防止と環境保全に関わるシミュレーションの具体的な課題を見いだしていない。</p> <p>②公害防止と環境保全に関わるシミュレーションの望ましい解決の在り方について、探究の過程が記述できていない。課題に対して多面的・多角的な考察や判断ができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害防止と環境保全に関わるシミュレーションから、探究学習を進める見通しが立ちやすい具体的なものを選択させる。</li> <li>探究すべき課題を見いだし、どのような資料を用い、どのような考え方を対照させ、何を考え、どのような結論を出したいのかを再度整理させる。</li> </ul>

資料活用の技能	①公害防止と環境保全に関わるシミュレーションについて、資料を通して考察ができない。 ②望ましい解決策のあり方を考察する過程で、役立つ情報を適切に選択し、効果的に活用していない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考察の過程で、シミュレーションの目的と内容について、具体的に整理させる。</li> <li>・資料活用の必要性と活用方法を、明確にする。</li> </ul>
知識・理解	①公害防止と環境保全について理解ができない。 ②公害防止と環境保全について、その知識を身につけていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーションの内容について、前提となる条件について具体的に考察させる。</li> <li>・公害の発生原因について考察させ、環境対策の具体的な目的を明確にする。</li> </ul>



# 数学科 学習指導案

○○県立○○高等学校  
指導教諭 ○○○○ 先生  
授業者 ○○○○

- 1 日 時 令和 4年 6月 1日(水曜日) 6限 (14:15~15:05, 50分)  
2 指導学級 普通科 2年 2組 36人(男子 20人, 女子 16人)  
3 教科・科目 数学・数学Ⅱ  
4 使用教材 教科書 数学Ⅱ Advanced (出版社 東京書籍)  
副教材 NEW ACTION LEGEND 数Ⅱ+B (出版社 東京書籍)  
5 単元名 第2章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域  
6 単元の目標 (1) 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めたり、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができるようとする。  
(2) 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようする。

## 7 生徒の実態

2学年の理系クラスで、通常の授業は習熟度別でクラス展開がなされているが、今回の授業では合同で行う。授業中の例題や練習問題には積極的に取り組む様子が見られる。また、分からぬところは互いに聞きあい、学びあいがしやすい関係性ができている。

## 8 単元の評価規準(評価の観点別の「おおむね満足できる」状況)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。</li><li>簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、よりよく問題を解決することができる。</li><li>また、図形の性質や位置関係を考察することができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え方数学的根拠に基づき判断しようとしたりしている。</li><li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしている。</li></ul>

## 9 単元の構成(全6時間)(太枠の第3時が本時)

時間	目標	学習活動
1～2	条件と軌跡の方程式の関係を理解することができる。条件を満たす点の軌跡の方程式を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"><li>条件を満たす点を取り、その条件を満たす軌跡の予想を立てる。</li><li>与えられた条件を満たす軌跡を求める。</li></ul>
3	不等式と不等式の表す領域について考察することができる。不等式の表す領域を図示することができる。	<ul style="list-style-type: none"><li>不等式の表す領域を図示する。</li><li>与えられた領域から、それを満たす不等式を立てる。</li></ul>
4～6	連立不等式の表す領域を図示することができる。連立不等式の表す領域を用いて、事象について考察することができる。	<ul style="list-style-type: none"><li>連立不等式の表す領域を図示する。</li><li>点がある領域内を動くとき、1次式や2次式の最大値・最小値を求める。</li></ul>

## 10 本時の目標

- 領域における、1次式や2次式の最大値・最小値を求めることができる。
- ICTを活用し、条件を満たす場合を考察・判断することができる。
- 平面図形の関係を考察し、数学的に表現できる。

## 11 本時の展開

※知：知識・技能 想：思考・表現・判断 主：主体的に学習に取り組む態度

時間	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の課題を提示する</li> </ul>	<p>問：連立不等式 <math>x - y + 2 \geq 0</math>, <math>2x + y - 8 \leq 0</math>, <math>x + 2y - 4 \geq 0</math> に対して次の問い合わせに答えよ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)連立不等式の表す領域を図示せよ。</li> <li>(2)点(x, y)が(1)の領域内を動くとき、<math>x + y</math>の最大値・最小値、およびそのときのx, yの値を求めよ。</li> <li>(3)点(x, y)が(1)の領域内を動くとき、<math>x^2 + y^2</math>の最大値と最小値、およびそのときのx, yの値を求めよ。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が、主体的に学びあいができるよう促す。</li> </ul>
展開1 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>領域を図示する際に記入が必要な点の確認をする。(x切片、y切片、交点、直線の式、境界線について)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)を解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図を大きくかくよう伝える。</li> </ul> <p>知 連立不等式の表す領域を図示することができる。</p>
展開2 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>x + y = k</math>と置いたときに、この式の図形的な意味を確認する。</li> <li>どの点で、最大・最小となるか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の授業内容の確認。</li> <li>(2)を解く</li> <li>GRAPESによって、最大・最小となる点を確認する。</li> <li><math>x + y</math>の最大値・最小値および、その(x, y)の値を、代入によってkの値を求める。</li> </ul>	<p>想 ICTを用いて、<math>x + y</math>が最大・最小となる点を考察することができる。</p> <p>知 <math>x + y</math>の最大値・最小値を求めることができます。</p>
展開3 (23分)	<p>発問(初見の問題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>x^2 + y^2</math>の最大値・最小値はどのように求められるか。</li> </ul> <p>発問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>x^2 + y^2 = k</math>とおくと、この式がもつ図形的な意味とは何か。</li> <li>円としての特徴を確認する。</li> <li><math>x^2 + y^2</math>がどのような時、最大となるか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(3)を解く。</li> <li><math>x^2 + y^2 = k</math>の図形的な意味を考える。</li> <li>GRAPESによって、<math>x^2 + y^2 = k</math>がどのように変化していくのか、最大となるのは、どのような時か確認する。</li> </ul>	<p>主 ICTを積極的に活用し、問題の解決に役立てようとしている。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>x^2 + y^2</math>がどのような時、最小となるか確認する。</li> <li>・円<math>x^2 + y^2 = k</math>と、直線<math>x + 2y - 4 = 0</math>が接するときに、最小値<math>k</math>を取ることに気付かせる。</li> <li>・円と直線が接するときの関係式が2つあることを確認する。 (判別式、<math>d = r</math>)</li> <li>・円の中心と接点を結ぶ直線が、<math>x + 2y - 4 = 0</math>と垂直に交わることに気付かせる。</li> <li>・2直線<math>x + 2y - 4 = 0</math>と、<math>y = 2x</math>の交点から、最小となるときの(x, y)の値を求めさせる。</li> <li>・2つの求め方があることを示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>x^2 + y^2</math>の最大値および、その(x, y)の値を、代入によって求める。</li> <li>・GRAPESによって、<math>x^2 + y^2</math>が最小となるのは、どのような時か確認する。</li> <li>・<math>x^2 + y^2</math>の最小値および、その(x, y)の値を求める。</li> </ul>	<p><b>思</b> ICTを用いて、<math>x^2 + y^2</math>が最大・最小となる点を考察することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの作業後は、タブレットを閉じさせる。</li> <li>・早く解けた生徒には、別の方法で解いてみることを促す。</li> <li>・生徒の進度を確認して、ヒント等を伝えいく。</li> </ul> <p><b>知</b> <math>x^2 + y^2</math>の最大値・最小値および、そのときの(x, y)の値を求めることができる。</p> <p><b>思</b> 図形の関係性を考察し、より良い求め方を判断できる。</p> <p><b>知</b> 平面図形の公式を用いて計算ができる。</p>
まとめ (5分)	・本時の振り返りをする。	・本時に学習した内容を確認する。	

## 12 本時の評価

評価規準	「努力を要する」状況と判断される例	指導の手立て
・領域を図示することができます。	・領域を図示することができない。	・領域を図示するポイントを伝える。
・ICTを用いて、求める式の最大・最小となる点を考察できる。	・ICTを活用しようとしない。 ・求める式の最大・最小となる点を考察することができない。	・ $x^2 + y^2 = k$ が何を表しているか確認する。 ・パラメータを動かしてみることを促す。
・領域における、1次式や2次式の最大値・最小値を計算できる。	・判別式や、 $d = r$ を用いた計算ができない。	・該当する教科書のページを示し、公式を思い出させる。

## 理科（生物基礎） 学習指導案

○○県立○○○高等学校

指導教諭：○○○先生

授業者：○○○○

1. 日 時 令和4年6月10日（金曜）3限（11:20～12:10, 50分）

2. 指導学級 普通科1年7組 41人（男子17人, 女子24人）

3. 教科・科目 理科・生物基礎

4. 使用教材 教科書 生物基礎（東京書籍）

副教材 新課程版 スクエア 最新図説生物（第一学習社）

新課程 リードα 生物基礎（数研出版）

課題プリント

5. 単元名 第1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー 2節 生体内的化学反応

### 6. 単元の目標

- (1) 代謝におけるエネルギーの流れや酵素の性質、呼吸と光合成のしくみを理解し、基本的な知識を身に付けるとともに、科学的に探究するために必要な実験や観察に関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。（知識・技能）
- (2) 生物とエネルギーの関係から問題を見いだして自分の言葉で表現するとともに、見通しをもって実験や観察を行い、得られた結果を既習事項と関連付けながら分析して解釈し、考察することができる。（思考・判断・表現）
- (3) 代謝や酵素、呼吸と光合成などの生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究することができる。（主体的に学習に取り組む態度）

### 7. 生徒の実態

生徒は問題の解答をGoogle formに入力したり課題プリントの問題を解くなど、予習をして授業に臨んでいる。授業中は私語はせず前を見て私の話を聞いたり、適宜ノートを取りながら学習に取り組んでいる。班活動では課題プリントの問題について教科書や資料集を活用し、班員と相談しながら協働的に取り組み、自分なりの解答を考えている。

## 8. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
代謝におけるエネルギーの流れや酵素の性質、呼吸と光合成のしくみを理解し、基本的な知識を身に付けようとしているか。また、科学的に探究するために必要な実験や観察に関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けようとしているか。	生物とエネルギーの関係から問題を見いだして自分の言葉で表現しようとしているか。また、見通しをもって実験や観察を行い、得られた結果を既習事項と関連付けながら分析して解釈し、考察しているか。	代謝や酵素、呼吸と光合成などの生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしているか。

## 9. 単元の構成（全6時間）

時間	目標	学習活動
1～2	生物は代謝によって生命活動に必要なエネルギーを得ており、そのエネルギーの受け渡しにATPが用いられていることを理解することができる。また、代謝とATPの関係をエネルギーの流れに注目して説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命活動にエネルギーが利用されていることを学ぶ。</li> <li>ATPの構造を学ぶ。</li> <li>代謝における同化と異化の違い、独立栄養生物と従属栄養生物の違いを学ぶ。</li> <li>代謝によるエネルギーの流れを理解する。</li> </ul>
3 (本時)	生体内ではたらく触媒である酵素の性質を理解することができる。また、酵素と無機触媒の反応の様子を比較しながらその違いについて説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>触媒について学ぶ。</li> <li>酵素の性質を学ぶ。</li> <li>酵素と無機触媒の違いを学ぶ。</li> </ul>
4～6	呼吸と光合成のしくみを理解し、どのようにエネルギーが変換されているか説明することができる。また、生物がどのようにして呼吸や光合成のしくみを獲得していくかを細胞内共生説を踏まえて理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミクロメーターを用いた実験を行い、ミクロメーターの使い方を習熟し、倍率との関係を考察する。</li> <li>呼吸と呼吸におけるエネルギーの流れを理解する。</li> <li>光合成と光合成におけるエネルギーの流れを理解する。</li> <li>呼吸や光合成を生物がどのように獲得したのかを細胞内共生説から理解する。</li> <li>細胞内共生説がなぜ支持されているのかを実験結果をもとに考察する。</li> </ul>

## 10. 本時の計画

### (1) 本時の目標

- 触媒とは何かを理解し、生体触媒である酵素の性質を説明することができる。また、実験を見て酵素と無機触媒の違いについて考察することができる。

### (2) 本時の展開 (知: 知識・技能 意: 思考・判断・表現 主: 主体的に学習に取り組む態度)

時間	教師の働きかけ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
導入 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○触媒について説明する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・触媒とは何か</li> <li>・(余裕があれば) 活性化エネルギーについて</li> </ul> </li> <li>○酵素の性質について説明する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素と基質について</li> <li>・酵素は何でできているか</li> <li>・酵素の触媒作用について</li> <li>・基質特異性について</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容を確認する。</li> <li>・ノートをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学での既習事項(アミラーゼによるデンプン分解)を例に出す。</li> <li>・触媒には生体触媒と無機触媒があるということを説明する。</li> <li>・酵素の触媒作用や基質特異性は図で説明する。</li> </ul> <p><b>知:</b> 酵素の性質を理解しているか。</p>
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過酸化水素の分解反応について復習する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化マンガンについて</li> <li>・カタラーゼについて</li> </ul> </li> <li>○過酸化水素の分解反応について実験を見せる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・触媒を二酸化マンガンにしたとき</li> <li>・触媒をタヌキの肝臓(カタラーゼ)にしたとき</li> <li>・触媒を加熱したタヌキの肝臓にしたとき</li> <li>・(余裕があれば) 反応が終了した試験管について、どうすれば反応がまた復活するか質問する。その際「①過酸化水素を増やす、②二酸化マンガンまたは肝臓を増やす」の2択を示す。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机を動かして班の形にする。</li> <li>・試験管の様子を観察する(泡がでているか)。</li> <li>・線香の様子を確認する(酸素が発生しているか)。</li> <li>・肝臓を加熱した場合はどうなるか確認する(泡がでているか、線香の様子はどうか)。</li> <li>・肝臓を加熱すると反応が見られないのはどうしてか考察する。</li> <li>・(余裕があれば) 反応を復活させるにはどうすればよいか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学での既習事項(酸素の発生方法)と関連付ける。</li> <li>・酵素はタンパク質であることを強調する。</li> <li>・課題プリントの問題と関連付ける。</li> </ul> <p><b>知:</b> 実験を通して、カタラーゼと二酸化マンガンの反応の違いを理解することができるか。</p> <p><b>意:</b> タヌキの肝臓を加熱すると反応が見られないのはなぜか考察できるか。</p> <p><b>主:</b> 主体的に授業に参加し、自分の考えを発言し、議論を深めているか。</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班活動について           <ul style="list-style-type: none"> <li>・班活動の様子を観察し、問題へのヒントや全体説明を行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントの問題を取り組む。特に基本課題の(6), (8), 発展課題の(1), (6)について班で考える。</li> </ul>	<p><b>意:</b> 無機触媒と酵素の違いを説明することができるか。</p> <p><b>主:</b> 主体的に授業に参加し、自分の考えを発言し、議論を深めているか。</p>

(3) 本時の評価

評価規準	「努力を要する」状況と判断される例	指導の手立て
<b>【知識・技能】</b> 酵素の性質を理解できたか。 実験から酵素と無機触媒の違いを理解できたか。	酵素と基質の関係や基質特異性について理解できていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要語句は丁寧に説明する。</li> <li>酵素の基質特異性について図を用いて説明する。</li> </ul>
<b>【思考・判断・表現】</b> 酵素と無機触媒の違いを説明することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学反応を促進させるという触媒の役割しか理解できていない。</li> <li>タヌキの肝臓を加熱したときの反応の原因を考察できていない。</li> </ul>	酵素と無機触媒の具体例を挙げ、それらを用いた演示実験を見せる。
<b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 主体的に授業に参加し、自分の考えを発言し、班での議論を深めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>班での議論に参加できていない。</li> <li>議論や思考を途中で止めて分からぬままになっている。</li> </ul>	議論が止まっている場合は、つまずいている部分にヒントを与えて議論を促す。

# 外国語（英語）科 学習指導案

○○県立○○高等学校  
指導教諭 ○○○○先生  
授業者 ○○○○

1 日時 令和 年 月 日 ( ) 限 ( : ~ : 55分)

2 指導学級 普通科 1年組 (40人)

3 教科・科目 外国語（英語） コミュニケーション英語 I

4 使用教材 教科書 三省堂 MY WAY English Communication I

5 単元名 Lesson 9 Sesame Street

## 6 単元の目標

- (1) 読んだ内容を通じて、平等と多様性や各国が抱えている諸状況について概要や要点を正しく理解する。（理解）
- (2) ペアワーク、グループワークにおいて、互いに協力しながら会話を続ける。（関心・意欲・態度）
- (3) 読んだことに基づき、日本で今、新しい登場人物を作るとしたら、どんなものが必要かを英語で話す。（表現）
- (4) 条件を表す if 節・仮定法過去の表現の使い方を理解する。（理解）

## 7 生徒の実態

コミュニケーション活動に意欲的で、知的好奇心が豊かなクラスである。クラス全体が仲が良く、他者とのかかわりも積極的である。一方で、語彙の不足や文法に苦手意識を感じている生徒もあり、発言を躊躇してしまう場面も見られる。4月当初からペア・グループ活動を多く取り入れ、1人1人の発言を大切にし、間違いを恐れず、伝えたいことを英語で言う練習を繰り返してきた。本研究でも更なるコミュニケーション能力の向上をめざし、生徒同士で協力し合いながらのアウトプット活動を取り入れた。

## 8 単元の評価規準

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度	(2) 外国語表現の能力	(3) 外国語理解の能力	(4) 言語や文化についての知識・理解
(ア) ペアワークやグループワークにおいて互いに協力しながら会話を続けていている。	(ア) 英語での説明を読んで、その内容が口頭で要約することができる。 (イ) 読んだことに基づき、情報や考えなどについて英語で話し合ったり、意見を交換したりすることができる。	(ア) 英語を読んだり、聞いたりして、情報や考え方などを理解したり、概要や要点を捉えたりすることができる。	(ア) 条件を表す if 節・仮定法過去の使い方を理解している。

## 9 単元の構成（本時 3／7 時間目）

時限	各時間のねらい	学習活動（授業内容）	単元の評価規準	評価方法
1	<導入> Part 1: ・本文の内容に興味・関心を持たせるとともにスキーマを活性化させる。	①導入 オーラルイントロダクション Q & A ②Part1 ・概要理解 ・音読 ・要約	(3) ア	・観察
2	Part 2: ・英文を読んで、概要や要点を理解することができる。 ・語句や表現・文法事項などの知識を活用して内容を的確に理解することができる。	Part1 review (Q&A) Part2 ①概要理解 (T&F/Q&A) ②本文内容・文法等確認	(3) ア	・観察 ・自己評価

3 (本時)	Part 2: ・公民権運動について、深く知り、時代背景を考える。 ・本文の概要を踏まえ、番組製作者になりきり、番組制作の意義を英語で伝える。	①概要復習（Q & A） ②時代背景を知る活動 ③音読 ④本文の内容についてインタビュー形式で口頭要約（番組製作者とリポーター）（ペア活動）	(1)ア (2)ア	・観察 ・ライティング ・自己評価
4	Part 3: ・英文を読んで、概要や要点を理解することができる。 ・語句や表現・文法事項などの知識を活用して内容を確に理解することができる。	①概要理解(T&F/Q&A) ②本文内容・文法等確認	(3)ア	・観察 ・自己評価
5	Part 3: ・世界の各国や地域ごとの登場人物の特徴から、世界で起こっていることについて、考えて、英語で話す。	①概要復習（Q & A） ②音読 ③要約 ④ペアワーク・全体でシェア	(1)ア (2)ア	・観察 ・ライティング ・自己評価
6	Part 4: ・国によるメッセージのちがいと日本版セサミストリートについて理解する。	Part2 ①概要理解(T&F/Q&A) ②本文内容・文法等確認 ③音読 ④要約	(3)ア  (1)ア (2)ア	・観察 ・ライティング ・自己評価
7	・まとめ ・読んだことに基づき、今の日本で、新しい登場人物を作るとしたら、どんなものが必要かを英語で話す。	①Q&A ②自分が必要だと考える登場人物について、どんなことを教えるために作るのか、またその特徴について、マッピングによるメモを作成する。 ・グループ内で、メモを参考にしながら英語で1分間の発表をする。	(1)ア (2)イ (4)ア	・観察 ・ライティング ・自己評価

## 10 本時の計画

### (1) 本時の目標

- ①セサミストリートの放送が始まったころのアメリカの状況を知り、diversity と equality の2つのメッセージの意味を考える。（公民権運動など）
- ②時代背景を把握し、なぜセサミストリートという番組を作る必要があったのかを理解したうえで、番組が大切にしているメッセージについて、番組製作者になりきって、英語で話すことができる。

### (2) 本時の具体的な方策

- ①アメリカのその当時の背景知識について考えられるように、写真を使い、状況を考えさせる。  
教師と生徒でインタラクションしながら、ペア活動で意見交換し、理解を深める。
- ②時代背景を理解した後、音読練習時に、その後に要約（番組製作者の思いを語る）する旨を伝えておき、キーワードや内容を意識した音読練習を行わせる。

### (3) 展開

流れ (時間)	学習内容 (時間)	活動の目的・ 指導のねらい	指導過程・学習活動		指導上の留意点 と評価の観点
			指導者	生徒	
導入 (5分)	①オーラル・インタラクションによる前時の復習(5)	スピーディーにこれまでの学習内容を復習し、本時で扱う内容に対する学びのレディネスをつくる。	①英語でQ-Aをしながら前時までに扱った本文の内容を確認する。	①教師の英語を聞き、質問に答える。 ②英語を聞いて質問に答える。	・質問への反応が薄い場合はヒントを出す。
展開 1 (15分)	①公民権運動に関連する写真を見ながら、時代背景の把握(5)	本文の時代背景について深く知り、なぜこの番組を作る必要があったのかを考え	①【生徒へ問い合わせ】本文に出てきた「公民権運動」に関連する写真を提示し、どんなことが起こっていたのかについて	①写真を見ながら、ペアで意見交換し理解を深めていく。	生徒が答えを出しやすいようヒントを出す。 【(1)ア】

	②ある黒人の少女の絵を見ながら、考える。(10)	させる。	考えさせる。英語でQ-Aをしながら行う。 ②ペアに1枚、絵を配り、絵の説明を英語で簡単にした後、生徒へ問い合わせる。	②絵を見ながら、この少女の思いを想像する。	
展開2 (28分)	①音読(8)  ②keywordsを書き出す。(5)  ③output活動番組制作の必要性を英語で話す(インタビュー形式で)(5) ④リポーターが聞いた話を報告。(5)  ⑤要約を英語で書く(5)(終わらなければ宿題)	音読練習後、番組のディレクターの立場になって、この番組がなぜ必要なのかを英語で話す。(口頭要約)	①教師の後に続いて音読させる。練習前に、その後に番組制作とリポーターの立場で番組制作についてのインタビューをする旨を説明し、keywordを意識して音読するよう伝える。 ②制作者とリポーターに役割分担をし、それぞれ準備を促す。  ③教科書を閉じるように指示し、keywordを使ってディレクターになりきって、英語で番組制作の必要性を話させる。(ペアワーク) ④ペアを変えて、今度はリポーターが聞いた話をメモを見ながら報告するように指示する。(ペアワーク) ⑤それぞれの立場で、内容をまとめさせる。	①教師の後に続いて音読。その後、各自で2回音読練習。  ②制作者：keywordを書き出し、番組制作の思いについて、マッピングする。 リポーター：質問を確認し、ほかの質問があれば考える。 ③ペアでインタビューを行う。役になりきつて、思いを伝える。(ペアワーク)  ④リポーターは聞いた内容を英語で伝える。(ペアワーク)  ⑤それぞれの立場でまとめる。	・音読後、インタビュー形式で内容について話す旨を伝え、練習の際に意識させる。  【(2)ア】 【(1)ア】  それぞれの役になりきつて、熱い思いを語るように促す。
まとめ (7分)	①全体の評価(2) ②自己評価(5)	①生徒の達成感を喚起する。 ②自己評価表への記入。	①なるべく全体をほめる ②今日の取り組みについて振り返らせる。	自分自身の取組を振り返る。	教師が笑顔でほめる。

#### (4) 本時の評価(パフォーマンスタスクを評価するためのループリック)

評価規準	評価のポイント A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する		
(2) 外国語表現の能力 番組制作の立場に立て、番組制作の意義について、英語で話すことができる。	A	番組制作になりきり、本文の内容と時代背景をまじえ、多様な表現を用いて適切に内容を伝えている。	
	B	本文の内容を踏まえ、意味の通じる英語で話している。	
	C	よく読み取れていないため、内容を適切に伝えることができていない。	
Aの例	Sesame Street has positive messages. I made this program because I wanted children to know the importance of diversity and equality. Until recently, in the US, white and colored children couldn't go to the same school. White and colored couldn't use the same drinking fountains. There is still discrimination in the US. The program started soon after the civil rights movement for equality among all races. Through Sesame street, children can learn that it is important to live in harmony with different people.		
Cの生徒への手だて	・キーワードが含まれている本文を再度提示し、平易な表現を用いたQ-Aによって内容を確認する。		